

健やかで挑戦し続ける子の育成



# 満天の星

能登町立柳田小学校  
学校だより 第11号  
令和5年1月27日

元気・勇気・根気で「わくわくドキドキ」な柳田小学校

## 人間としての優等生を育てる

2023年、新しい年が始まりました。今年は「卯（うさぎ）年」です。うさぎは、穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」、また、その跳躍する姿から「飛躍」「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。そこで卯年は、新しいことに挑戦するには最適な年とされています。

3学期の始業式には、子ども達に何日登校する日があるかを問いかけてみました。6年生は49日、5年生以下は54日です。3ヶ月あると思っても短いですね。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。と言われます。そこで、短い3学期を充実させるためにも、目標をもって元気・勇気・根気で学校生活を送って欲しいと思います。3学期は学年のまとめの期間でもあります。それぞれの学年で学んだことをしっかり身に付けて、この4月には進学・進級して欲しいです。

さて、ここからは年末年始に読んだ本から心に残ったこと『人間としての優等生を育てる』について紹介します。松下電器産業（現パナソニックホールディングス）の創業者である、松下幸之助著「親として大切なこと」PHP総合研究所発行の一節です。この本は、松下の著書「人間を考える―新しい人間観の提唱」から、子育てや教育、人材育成、あるいはあるべき人生の生き方について著したり語ったりしたものをまとめたものです。

どの親御さんも、我が子を一人前の立派な人間に育てたい。自分の子どもが学校でいわゆる優等生になって欲しいと期待しておられると思いますが、すべての子どもさんがすべての面で人並み以上にすぐれた優等生になることは、不可能だといわなければなりません。しかし私は、人間として最も尊いことは、学校で優等生になることもさることながら、それよりも「人間としての優等生」になることだと考えているからです。この「人間としての優等生」とは具体的にどういう人かということ、それは第一に、万人に等しく与えられている共通の人間性というものに基づいて、人間らしく生きるための基本的な知識なり良識をしっかり身につけた上で、自分のもっている素質、才能というものを素直に生かしている人だということができるでしょう。（中略）

学問に秀でた人は学者になり社会に役立つ研究を進める。手先が器用な人は大工さんになって立派な建物を築くというように、人それぞれが自分のもてる素質なり性格、能力を十分に生かす仕事につくことが、自分の喜びにもなり、また社会のためにもなる。そういう人になることが、私は人間としての優等生になることだと思うのです。これならば、学校における優等生と違ってすべての人がなることができるし、それは人生においても何にもまして尊いことではないでしょうか。

それでは、子どもをそういう人間としての優等生にするための基本の心がまえとして大切なことは何かといいますと、それは、まず子どもを素直な心の持ち主に育てるよう努めることだと思います。子どもを素直な、私心のない心の持ち主に育てるならば、子どもは何が正しいことかということ、自主的に誤りなく判断できるようになりましょうし、自分の持ち味を生かすことの大切さ、尊さというものをも自ずと理解して、勇気と自信をもって自分の道を歩んでゆくこともできるようになりましょう。

学校には様々な子どもたちが生活しています。今年も、93名一人一人をしっかりと見取り、元気・勇気・根気で「人間としての優等生」に育てていきたいと思っています。

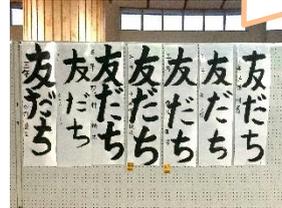
## ◆各種作品受賞者の皆さん

### ☆校内書き初め大会 入賞

- 1年 小谷内 智輝、佐野 日向子、野村 羽希
- 2年 石垣 寿奈、竹中 結香、田尻 悠
- 3年 小谷内 優衣、西尾 亜海、深見 芽生
- 4年 上田 暖乃、松島 仁梨、向峠 妃菜多、山本 百合子
- 5年 石垣 來寿、川崎 茉依、高嶋 華子、正木 ひかり
- 6年 石垣 寿迦、河端 大智、二又 綾子、横山 理秀



3年生は初めて毛筆での書き初めに挑戦しました。



### ☆能登町小・中学生新春書き初め大会

- ・興能信用金庫理事長賞 6年 横山 理秀
- ・能登ライオンズクラブ会長賞 3年 西尾 亜海
- ・北國新聞社賞 2年 石垣 寿奈
- ・金賞 6年 石垣 寿迦
- ・銀賞 1年 小谷内 智輝、4年 松島 仁梨、6年 福池 万葉、二又 綾子
- ・銅賞 1年 東 咲希、2年 河端 華乃、3年 小谷内 優衣、新池 幸希、4年 河端 千輝、5年 石垣 來寿、6年 河端 大智、松島 真仁、平瀬 咲妃、源 柊哉

### ○校内書き初め大会 1月10日(火)

3学期初日は、始業式後に「書き初め大会」がありました。冬休み中に練習してきた成果を出すために、どのクラスも集中して書き初めに挑戦していました。完成した作品は、2学期の終わりに書いた時に比べると、随分と上達している人が何人も見受けられました。



## 2月の行事予定



1	水	6年生卒業制作(5・6限)
2	木	
3	金	紙ふうせんさん読み聞かせ(4年)
4	土	
5	日	
6	月	指導主事計画訪問 C(午後)
7	火	
8	水	SC 紺谷先生来校
9	木	授業参観 学級懇談(来年度の役員決め)
10	金	紙ふうせんさん読み聞かせ(5年) 卒業写真撮影 8:20 クラブ6限
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	小中連携の会(6限目に柳田中の先生が6年生の 授業を参観に来られます。)
14	火	歯みがき週間(~2/20)
15	水	SC 紺谷先生来校
16	木	
17	金	紙ふうせんさん読み聞かせ(6年) 1年生と保育園児との交流会(2・3限) 6年生を送る会会場準備(5年生)6限
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	6年生を送る会(13:00~) SC 紺谷先生来校 親子読書
23	木	天皇誕生日
24	金	紙ふうせんさん読み聞かせ(特学) 漢字コンテスト 委員会6限 集金振替日(最終)
25	土	
26	日	
27	月	ノー画面チャレンジ(~3/6)
28	火	中学校体験入学説明会(5・6限)

### <星空探検クラブ>



宇佐美さんの指導のもと、  
手作りプラネタリウムを作  
りました。

### <もの作りクラブ>



空気砲とバスケットゲー  
ムを作っています。

### ○3学期のあいさつ運動 1月16日~23日

3学期のスタートとして、冬休みの気分を吹  
き飛ばし、お互いにコミュニケーションをとる  
ために、学年ごとにあいさつ運動がありました。  
どの学年も登校してきた人よりも先に、そして  
元気よくあいさつすることを心がけながら、あ  
いさつ運動ができました。3学期という仕上げ  
の学期として、いいスタートが切れました。



### ○鼓笛練習開始! 1月13日~

6年生を送る会に向けて、昼休みを中心に「校  
歌」の鼓笛練習が始まりました。まだパート練  
習の段階ですが、2月からはできるようになっ  
た人から、全体練習に参加していきます。もう  
すぐ卒業してしまう6年生に向けて、感謝の気  
持ちは伝わるように5年生を中心として、練習  
に励んでほしいと思います。

### ○クラブがありました。1月20日(金)

3学期に入って初めてのクラブがありました。  
クラブは児童の希望を優先しているだけあって、  
どの子も楽しみにしています。それぞれのクラブ  
で充実した時間を過ごしました。

#### <パソコンクラブ>



瀧田さんにスクラッチでシ  
ミュレーションゲームの作り  
方を教わりました。

#### <イラストクラブ>



自分の描きたい絵をもってき  
てひたすら描いています。



#### <スポーツクラブ>

フットサルをして、身体が  
暖くなりました。

## ○通学路の危険箇所について

1学期に保護者の皆様から通学路の危険箇所について意見を出していただき、ありがとうございました。それらを集約したものを1学期に教育委員会に報告しました。それをもとに、夏休み中に学校代表としてPTA副会長の綱屋さんの立会いのもと、教育委員会をはじめ、土木事務所や水道課、警察署の方々と共に、実際に危険箇所について確認をしました。そして、11月末に能登町の通学路安全推進実践委員会があり、各学校の通学路の危険箇所の今後の対策について、報告がありましたのでお知らせします。

箇所名・住所	通学路の状況・危険の内容	事業主体	対応
柳田温泉口信号	歩道がない。	町・県	信号機の移設は不可能。外側線については現地を精査し検討を行う。併せて、学校での指導も行う。
柳田球場からシルクロードに抜ける道	舗装がめくれている。	町	町道と野球場の管理道路のため、協議を行い、補修計画をたてたい。
笹川八の横断歩道	見通しが悪い	県・警察	速度取り締まりの強化を図りたい。
国光、鴨川方面県道	街灯が少なく、冬に危険を感じる。	町・県	区に対し、防犯灯の設置を要望。
鴨川バス停	バス停の建物もなく、危険	町・県・警察	地区の要望があった時に対応を検討することとなる。現段階での対策は未定。
白山神社前	道が狭く、危険である。	県・町	今後も外側線の補修などソフト対策の継続を図る。
黒川のバス停	急カーブにバス停がある。横断歩道が消えている。	県・町・警察	外側線の設置を行う。
天坂集会場の横断歩道	見通しが悪い。	県・安全協会	安全旗を要望。
上町バス停	子供が渡っている間に信号が赤になる。バス停に待機所・歩道がなく、大変危険である。	県・警察	信号の秒数は変えられない。信号の渡り方について指導を行う。
寺地橋までの山	がけ崩れの危険 歩道がない。	町	対策実施については現実的ではない。
寺地橋近くの登坂にある用水路	蓋がないため、車で通るのも危険	町	農林水産課に報告済み。
教文前のバス停	子どもの通る場所が決まっていないので危険である。	教育委員会	教養文化館の道路の延長上が実質道路。そこを境に石井側が町有地。上町側が民地となっている。基本はバス以外の侵入は想定していない。

※今回、たくさんの意見をいただいたことで、それぞれの地区の危険な箇所が把握できたと同時に、対応策について考えていただくことができました。要望通りにならないところもあるかと思いますが、気になる箇所があれば、今回のように声をあげていただくことが、改善につながる第一歩だと思います。今後とも子どもたちが安心・安全に学校に通えるように、ご協力をお願い致します。

